

令和6年度第1回富山県成長戦略会議での 主なご意見等

関係人口拡大の意義について

【藻谷委員】

- ・地方に見られる地元卑下の伝統と、域内同調圧力により、富山に住む私たちは不幸せだ、東京に住むあの人たちは幸せ、という「青い鳥病」が蔓延してしまう。それにより、若者が流出して、子育て欲求を自制する人が出てくる。
- ・定住人口減少の悪循環の根源である地元卑下および域内同調圧力を、関係人口の方々は、打破する、緩和することができる。
- ・よそから来た人と連携・協働が、内部変革の助けになる。それにより域内同調圧力を脱することができる。そして、(富山の人たちが、)自分たちでもなんとかできるという自己効力感を回復することが、青い鳥病を防ぐ。
- ・世界の中から富山を選んだ関係人口というのは、外部目線で富山を評価している。その評価が、行動を通じて見える化され、地元卑下を壊すこととなる。

関係人口拡大に向けた考え方について

【中村委員】

- ・風の人型というか、濃い人、質が高い人を増やしていくというのが、やはり施策として優先されるべき。

【藤井副座長】

- ・単に消費しによく来てくれたり、よく観光に来てくれたりする「交流人口」と、本当に富山県内で課題を解決してくれたり、足りない供給力を供給してくれるという意味での「関係人口」は、整理した方がいい。

【藻谷委員】

- ・関係人口は、バーチャル移動型(来訪せず特産物を購入する人など)、来訪型、二地域居住型、風の人型(何年か住んでまたいなくなる人)の4類型に分けられる。そのうち、地域に与えるインパクトが大きいのが、富山県に来て何年か住んでまたいなくなる「風の人」。例えば出向者、赴任者。転勤で富山に何年か住んでいた人。あるいは、学生。
- ・関係人口の数を増やす取組みは実は大事。その上で、質に注目しなくてはいけない。

「人口未来戦略」の検討の方向性について

【安宅特別委員】

- ・人がやって来るとか関係する時に、どういう理由でやって来るのかという視点が一番重大であって、どういう人かで変にターゲティングをしない方がいい。具体的に一体どういう場面なのか、理由でやって来るのかというところの深掘りが極めて重要。

【朝比奈委員】

- ・人を東京から引きはがすとか、東京一極けしからんという議論に持っていかない方が良く思っている。東京にも今や大して余裕がないので、生産性のないことをやっても仕方がない。富山そのものの魅力をしっかり高めていくんだということが、大前提にある。

【高木委員】

- ・ポジショニングが大事。自然環境だけで言うと結構似ている所もたくさんある中で、富山のポジショニングを明確にしないと埋もれる。
- ・ポジショニングを明確にするために一番有効な打ち手、絞り込んだ手を打っていき、認知を明確にしていくことで、自分たちが狙いたい層の関係人口をしっかりと作り出していくことが重要。

県外の人に関わる「場面」や関わる人の「属性」について

(県外の人に関わる「場面」)

【安宅特別委員】

- ・全世界を視野に、バケーション・リトリート系の話を入れるべき。
- ・知的生産でやって来る場所、ワーケーションみたいな話が結構重要。

【朝比奈委員】

- ・現代的製造業のことを意識した関係人口づくり。ものづくりとか製造業ということも意識した政策も考えてもいい。

【齋藤委員】

- ・他から来た人にどんどんイベントに参加してもらい、それから地元の人にも参加してもらい、富山を好きになって、それから関係人口という形で他県から来てもらう。また一緒に参加してもらうことで、関係人口は増えるし、その中で富山に定住してくれるような人も増えてくる。

【藻谷委員】

- ・同調圧力から自由というのは、住人ではないからこそ圧力を無視するというリスクを取れる。(関係人口と)うまく連携・協働すると(地域や企業の)内部変革の助けになる。

(関わる人の「属性」)

【高木委員】

・自然が豊かな日本、その中でも富山はすごい。能登地震はあったが、富山に関しては極めて大きい地震が少なく、かつ、関西と東京へのアクセスもどんどん、良くなるという時に、東京の方からの教育・子育ての遠征の場所でもあればいいと思う。世界の、アジアの富裕層がボーディングスクールで富山に送り込むみたいなこともある気がする。

【前田副座長】

・地方における新しい総合産業戦略として観光業を捉え直す時に、ワーケーションリゾートはいい感じの大人が来るのだが、こういう所で子育てしたいとか、サマースクールとかでいいからこういう所に来たいという方々に、富山は刺さると思っている。

【藻谷委員】

・地域に与えるインパクトが大きいのが、富山県に来て何年か住んでまたいなくなる「風の人」。例えば出向者、赴任者。転勤で富山に何年か住んでいた人。あるいは、学生。

関係人口がその地域を選ぶ「理由」について

【安宅特別委員】

・非常にインスピレーションに美しい、行ってはっとするぐらいグッとくる何かがあるというのがまず一つ重要。二つ目は、そこに行く何か面白いことが起きるという面白感。単なる観光ではないため、色々な出会いがあったり、何か出てきたり、何かが始まるというのが重要ではないか。三つめは隙間。異質な人が入ってきやすい空間をいっぱい作って、ステイする居心地のいい場所をいっぱい作るというのは非常に重要。

・なぜ来るのかの場面、オケージョンベネフィットみたいなものを徹底的によく考えて、そこに適したものは一体何だろうと考えることを強く訴えたい。

関係人口拡大に向けた富山の「強み」や「ポジション」について

【朝比奈委員】

・北陸地域は、元々半導体とかの拠点。水とかいろいろなインフラはかなり北陸地域が整っていて、実際パナの工場とか昔あったわけで、そういったものを一部活用しようという動きもある。かなり円安で、チャンスだが、労働供給制約がある中で、省人化したものづくりということも結構できてきているので、製造業とかものづくりというところを一つ掲げて、現代型の供給制約はあるけれども、どういう風に関係人口を作っていくかということ、富山という場所の特性を考えると、考えてもいいのかなと思う。

【齋藤委員】

・強みとして置いてもらいたいのは、子育てしやすいこと。待機児童は0だし、小中の教育レベルは非常に高いと全国的に評価されている。それから、いろいろな形での共働きもできるということ。

【高木委員】

- ・世界的な地政学的な流れの中で、多分日本がある意味安全な場所になっていると思う。その中で富山はウェルビーイングを立ててやっていく。富山を含め北陸は日本における北歐みたいなポジションになればいいと思っている。
- ・ウェルビーイングというイメージと富山の持っている自然の豊かさ。今インバウンドでは高山が非常に人気だが、富山はそれに近い文化圏の、多分古き良き日本というようなものに近いイメージがあるのではないかと思っていて、製造業も大事だと思うが、戦略的に良質な関係人口を作り出していく打ち手みたいなもの自体を決めていくのも結構大事。
- ・結構観光地としてのポテンシャルはあると思う。むしろ高山を取り込んだ一つの経済圏みたいに捉えて、サマースクールとかそういう教育も含めて、長くいたくなる良質なエリアというイメージを作り出すことはやればできる。

【中村委員】

・自然もすごくたくさんあって、子供を育てるのにバッチリ。富山県、すごくチャンスと
思っている。

【藻谷委員】

・時間空間の豊かな富山で暮らし、随時都会や世界で遊ぶ人生の方が楽しいと思う人をターゲットにすべき。

関係人口拡大のための「打ち手」について

【朝比奈委員】

- ・モデル都市の選定など、国の動きともタイアップしつつ、深掘りして議論して、どう
関係人口づくりができるのかということを考えていくのも良い。
- ・ものづくりとか製造業ということも意識した政策も考えても良い。
- ・面白い人、ユニークな人、非常に人に注目して、人をもう少しプロデュースしてプレイ
アップしてつなげていくというところが、関係人口づくりにすごく大事。

【齋藤委員】

- ・官民が協力する形でいろいろなイベントを行って、特に面白いことをどんどん発信し
ていくということが重要。
- ・強みとして置いてもらいたいのは、子育てしやすいこと。待機児童は0だし、小中の教

育レベルは非常に高いと全国的に評価されている。それから、いろいろな形での共働きもできるということ。こういう策をもっと積極的に PR すると、ひとり親家庭の方に来てもらえるかもしれない。

- ・行政、県の方が中心になって、大学生と高校生がどんどんイベントに参加できるようなポータルサイトを作ってもらいたい。

【高木委員】

- ・ボーディングスクールをもっと積極的に作ってあげばいい。子供たちにとってもそうだし、親にとってもすごい関係性になっていくと思う。
- ・関係人口を作り出すことにトライしているプレイヤーを、行政だったり、地銀だったり、そういうインフラを支えているような企業をもっと支援したり応援していく。多分食とかはかなり強くなってきていると思うが、ホテルとかはまだ弱かったりすると思うし、そういうところにもっと重心をかけていくというのは、すごく未来があると思うし、実際プレイヤーは結構ポツポツ個人の力で出てきてはいると思うので、まだエコシステムにはなっていないのかなという気がして、そこを伸ばしていくというのは、さっきの教育とかも含めて、もしかしたら医療的なツーリズムやヘルスケアのツーリズム、リトリートも含めて結構ポテンシャルある
- ・(同調圧力打破に向けて、)子供を送り込んだりしているようなエリアが局所的に生まれて、一部の、外の人も入り込んでいるような場所を作っていくとか何かやっていかないと、あまり変わらない。

【中村委員】

- ・青い鳥病の自己効力感の回復というところは、今まさに富山が進めているウェルビーイングがすごく役立つのではないかな。
- ・子育てしていくなら住まいをある程度補助するとか、住まいを提供するということを具体的にやるとか、あとみんな気にしているのは教育面。東京から離れたら遅れるのではないかなという不安があるので、そうではないとしっかりアピールしていくべき。
- ・バリバリのキャリアウーマンだけど、富山に移住してうまく子育てもやっているみたいなモデルを作っていって、富山に住んですごく良かったとか子育てしやすいということを言うことができると、一番欲しい子育て世代を富山県がゲットしていける。
- ・富山県はひとり親家庭の方を受け入れる県と言ってひとり親家庭の方が天国な県みたいにしてしまおうとか、他がまだやっていないとがった政策をやっていくというのはすごく大事。

【前田副座長】

- ・ワーケーションリトリート、こういう所で子育てしたいとか、サマースクールなどに対して手厚く、行政も含め、金融機関も含め、あと地域プレイヤーを育てる環境も含め育てていく、そういう環境を整えていくことが必要。
- ・質の高いコンテンツをやはり作らないと結局人は来ない。最終的に、質の高いコンテ

ンツを作っていくのは地元の間人であるべき。当然、外部の目線、外部の人が入ってくることも大事なのだが、最終的にやはりシビックプライドを持つのは自分たちで作れるかどうかということだと思つので、そういう人たちを育てる、もしくは、最初の立ち上げの時はお金もかかるしネットワークも少ない彼らに対して相当依怙最膺して。この地域をリードしていく若い人たちを育てていく官民一体となつたエコシステムというのをもう少し富山は考えて、そこで圧倒的になれるような戦略はあり。

【藻谷委員】

- ・関係人口にただ来てもらうだけではなく、彼らからどう見えているのかということをもつと教育とかに導入して、知ってもらう機会を増やさなければならない。
- ・高校生の留学受入を島根県みたいに手広くやったらどうか。お受験大好きな人にも素晴らしく訴求するだろう。そうすると、高校時代にただで、都会とかに就職したが、なぜか知らないが出身地ではないのに戻ってきたという、都会、富山、そしてまた都会に戻って、また富山に戻ってといういわゆるSターンというのが出てくる。
- ・高い質の関係人口を活かすには、地域側の活用努力を相当やらないといけない。インパクト大なのがこの風の人型。例えば出向者、赴任者。転勤で富山に何年か住んでいた人。あるいは、学生。

人口減少緩和策に関する意見

【土肥委員(欠席のため、書面で事前に提出いただいたもの)】

- ・関係人口を増やすことが人口減少緩和に、プラスの影響を与えるのかについては、曖昧な印象。人口減少自体を緩和させるためのアクションや魅力の発信、多拠点生活も含めた移住促進についても同時に議論が必要。

【中尾座長】

- ・定住人口の少なくとも横ばいを維持していく、予測グラフの通りには下げないぞという気持ちも一方でやらないといけない。